〈発行所〉
全国港湾労働組合連合会
〒144-0052 東京都大田区蒲田5-10-2
日港福会館1F
電話：03—3733—2561
FAX：03—3733—2627
発行人：玉田雅也
定価：30円（組合費に含む）

（毎月1回15日発行・平成7年8月18日第三種郵便物認可）

2022年10月15日　第355号

全国港湾

NATIONAL FEDERATION OF DOCKWORKERS UNIONS OF JAPAN
(ZENKOKU-KOWAN)

ZENKOKU-KOWAN

E-Mail : nfduj@zenkoku-kowan.jp

全国港湾に結集しよう！

各単組定期大会

全港湾

全日本港湾労働組合の第93回定期全国大会を、9月7日、8日の2日間、月岡温泉華凰にて開催した。全国から大会代議員86名、中央本部役員18名、傍聴者を含め157名が出席、議長団は宮城辰士代議員（沖縄）、苫米地匡敬代議員（東北）が務めた。

役員については投票の結果、関東地方出身の鈴木誠一氏を中央執行委員長に、九州地方出身の松永英樹氏を書記長に選出、新執行体制を確立した。

第93大会の開会にあたり、執行部を代表して真島中央執行委員長は「全港湾は日本にわずかに残っている真の労働運動を行える素晴らしい労働組合です。この理念を継続し、発展させていくことが本日参加された全港湾組合幹部の使命です。港湾における労働運動は、今踏ん張りどころだと感じている。今、みんなで頑張らなくて、どうするんだと私は思う」等と述べ、全港湾が先頭に立って運動して行くことの重要性を訴えかけた。

続けて、ご来賓の皆様より力強い連帯の挨拶を受けた。第93回大会には、全国港湾労働組合連合会から柏木公廣中央執行委員長、全日本交通運輸産業労働組合協議会から住野敏彦議長がそれぞれお忙しい中、駆けつけていただいた。

議案については、本部案を支持する立場からの発言が相継ぎ、各地方の代議員・特別代議員延べ25名から、意見・質問・提案などの発言を受けたなお、提案された議案は全て可決され、運動に邁進していくこととなった。

日港労連

日本港湾労働組合連合会は、9月14日～15日に掛け、第70回定期大会を兵庫県「神戸ホテルフルーツフラワー」に於いて開催した。

大会では、全国港湾労働組合連合会・柏木中央執行委員長を、お招きして産別運動と団結の決意について、貴重なご挨拶を頂いた。

2022年度運動方針案では、港湾荷役・関連部門・検査部門を踏まえ専業・現業労働者の地位向上・職域の確保・安全問題など多岐に亘る運動方針案が満場一致で確認された。

また、改選時期では無かったが、新たに書記次長（非専従）古澤氏の選任を定期大会に於いて確認した。

竹内中央執行委員長からは、「組合員を取り巻く情勢は雇用と職域などの問題が予断を許さない状況にある。変わらぬ仲間の団結の力を借り、日港労連の取り組みを引き続き進めて行きたい」との就任あいさつがされた。

そして、大会スローガン・大会宣言案に於いても採択され、最後に、竹内中央執行委員長の旗の下、ガンバロウ三唱で組織の団結と拘束力の意思を固め、第70回定期大会を締めくくった。

検数労連

9月8日(木)～9日(金)にかけて、シーパレスリゾート豊橋で全国検数労連第54回定期全国大会が開催されました。

今大会は3年振りに大会参加者の制限を解除。代議員・中央執行部・オブザーバー合わせて57名が参加し、21年度運動の到達点と総括、22年度運動方針(案)について、活発な議論が交わされました。また、今大会に来賓として激励の挨拶をくださった全国港湾・柏木委員長をはじめ、各共闘関係労組より多数のメッセージをいただき、紙面ではありますが厚く御礼を申し上げさせていただきます。

21年度経過と総括では、長期化するコロナ禍の影響やロシアのウクライナ侵攻による急激な物価高の影響を受けた中で、冬夏一時金、春闘での経済闘争では『生活防衛闘争』を基本に全国団結で賃金の引き上げ、残業に依存しない賃金体系の確立を目指し闘争を行いました。その結果、冬季・夏季一時金闘争、春闘では総額で昨年を上回る回答を得ることができました。また、22春闘中盤で全ての組合員を対象としたオンライン報告集会を行うなど、新たな運動を展開したことも大きな特徴の一つであったと言えます

22年度運動方針では、日常生活を通して組合員の生活と暮らしをいかに守り、要求を前進させていくかが問われる1年となります。中央と地域が連携を図りながら『雇用と職域の維持・拡大の前進』『安定した生活の維持、向上に向けて経済要求の前進』『日常活動の活性化と次世代育成の前進』『組合未加入者の組織化の前進』『職場を基礎にしたたたかいの前進』『暮らしと雇用、平和を守る運動の前進』を基調とした運動の前進をはかっていくことを確認しました。

検定労連

検定労連第50回定期大会は、9月20日（火）から22日（木）にかけて、途中各単組定期大会を挟み、総数35名の参加のもと開催された。コロナ禍に於ける今大会は、感染拡大防止の観点から代議員の一部がリモート参加となった。

開会の冒頭、今年2月ご逝去された植草名誉顧問を偲び、黙祷が奉げられた。

大会は、外池副委員長による開会挨拶及び資格審査の後、大会議長に池田代議員（海事）、土屋代議員（シンケン）と大会各役職員を確認し、全国港湾柏木委員長の激励の挨拶を頂き、議事に入り、中央執行委員会提出議案、決算及び予算について審議し、全会一致で採択された。

中央執行部体制は、中央執行副委員長と中央執行委員の2名が変更となり、22年度の運動方針を執行することとなった。

その後、「全国港湾を中心とした港湾関係組合と連携し、港湾産別運動の更なる発展に寄与するとともに、生活向上に向け、全国の港湾労働者をはじめとした全ての労働者と連携し、ともに闘うことを決意する」大会宣言を採択し、上出副委員長の挨拶を以って閉会した

開催にあたっては、沢山のメッセージを頂きましたことに、この場を借りて御礼申し上げます。

大港労組

大港労組は10月7日、大阪港湾労働者福祉センターに於いて第70回定期大会を開催した

大会は、コロナ感染対策を十二分に取り入れたうえで、執行部・代議員を含め111名参加のもと、議長に高田代議員（大港）、若山議員（富栄）を選出し議事進行を行った。

昨年同様にコロナ感染対策としてご来賓はご遠慮頂きましたが、全国港湾真島中央執行委員長をはじめ多くの関係団体から祝電・メッセージを頂きました。

第一号議案「21年度主要な運動の経過と総括」、第二号議案「22年度運動方針」、第三号議案「21年度一般会計・22年度特別会計収支決算報告・21年度会計監査報告」、第四号議案「22年度一般会計収支予算」、第五号議案「22年度役員選出」、大会スローガン・大会宣言を審議・採択を行いすべての議事が満場一致で採択された。

最後は、小嶋執行委員長のがんばろう三唱で締めくくった。

全倉運

全倉運は9月6日に豊橋・シーパレスリゾートで第77回定期大会を開催した。

大会は、議長団に三井倉庫HD労組の中内議員と川西倉庫労組の近江議員を選出した。

挨拶に立った山本晃弘中央執行委員長は一年間の活動を振り返り、春闘では98春闘以来の成果を記録した。しかしながら好調な単組がある一方、賃金が上がらなかった単組もあることを指摘。物価上昇が家計や生活を圧迫していることから、賃上げの声を上げ続けていく事が大切だと呼び掛けた。続いて来賓として来ていただいた全国港湾玉田書記長は、産業全体としての22春闘が合意していないことを報告。その問題点として料金価格改訂問題やONE再編の取り組みを紹介した。

その後、2022年度の活動経過を報告、新年度の運動方針などを審議、採択した。

役員選挙では、中央執行委員長に山本晃弘氏（川西倉庫労組）が前年に続き選出されたほか、新役員候補者全員が信任を受け、新執行部体制が確立された。

大会の最後には、山本中央執行委員長の団結ガンバローで締めくくった。

シャモ樽

8月に開かれた核不拡散条約（NPT）再検討会議で、核保有国と非保有国が核軍縮について話合いを行った。この条約には、国連加盟国193ヵ国中、191ヵ国が参加している。条約は前文で「核戦争の回避」をうたっており、ロシアのウクライナ軍事侵攻で核戦争の危機が強まる中、解決策が示されるかが注目された。しかし、ロシアの反対によって前回開催の2015年に続き、合意文書は採択されなかった▼核兵器廃絶に取り組むNGOは、ロシアだけではなく他の核保有国についても「核軍縮に向き合わない不誠実で傲慢な態度」と非難している。核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）は、「核保有国は核兵器の先制不使用など新しい提起を全て否定し、合意文書案に書き込むことを許さなかった。NPT体制は機能不全に陥っている」と批判している▼このような状況下ではあるが、核兵器全廃に向けた動きも出てきている。6月には核兵器禁止条約第一回締約国会議が開催され、50項目の行動計画の実践が始まった。日本政府に第2回会議への参加を求める声も強い。唯一の戦争被爆国で、アメリカの核兵器に依存している日本が参加する意義は非常に大きい。あきらめずに参加を求める声を上げていく必要がある。